

# 文学部での学び方

## 1. 文学部での学び方

## 2. 英語を総合的に学ぶ人のための履修ガイド

## 3. メジャー別履修モデル

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| ①異文化コミュニケーション《英語》   | ⑥表現文化   |
| ②異文化コミュニケーション《日本語》  | ⑦国際日本学  |
| ③異文化コミュニケーション《中国語》  | ⑧社会学    |
| ④異文化コミュニケーション《ロシア語》 | ⑨社会福祉専修 |
| ⑤哲学・歴史学             |         |

## 4. 特修プログラム

- ①.文学部中国語特修プログラム
- ②.文学部ロシア語特修プログラム
- ③.日本語教育プログラム
- ④.日本語教育（基礎）プログラム

創価大学文学部

# 1.文学部での学び方

晴れて創大文学部生になった皆さん、まことにおめでとうございます。ここでは、文学部のカリキュラムの内容と具体的な学習の進め方を説明します。将来の夢や進路について考えながら読んでいただければ、このカリキュラムが、どのように皆さんの夢の実現をバックアップするのか、お分かりいただけるとと思います。自分自身のケースに引きよせてじっくりとお読みください。

## ☆文学部人間学科三指針—学部理念・目的—

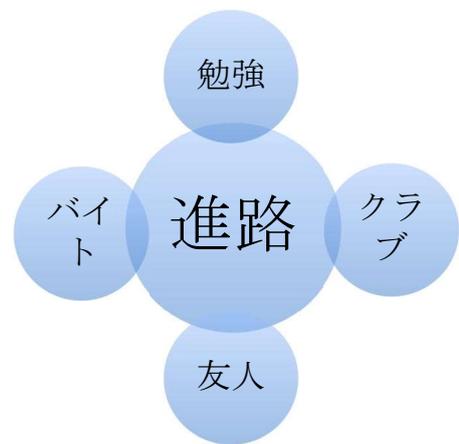
文学部は 2007 年、従来の 5 学科 6 専攻から人間学科 1 学科の体制で新たにスタートしました。その際、創立者池田大作先生から、人間学科に以下の 3 つの指針を頂戴しました。

1. 生命の尊厳の探究者たれ
2. 人類を結ぶ世界市民たれ
3. 人間主義の勝利の指導者たれ、

文学部人間学科は、『履修要項』にも記載のとおり、この 3 指針を学部理念として、各界・各分野で本格的に活躍できる創造的人間の育成を目的としています。その目的達成のために、以下のようなカリキュラムやプログラムを整え、学生の皆さんが思う存分に勉学や諸活動に取り組めるようにしています。以下にその要点を示します。

## ☆文学部生が身につける四つの「力」

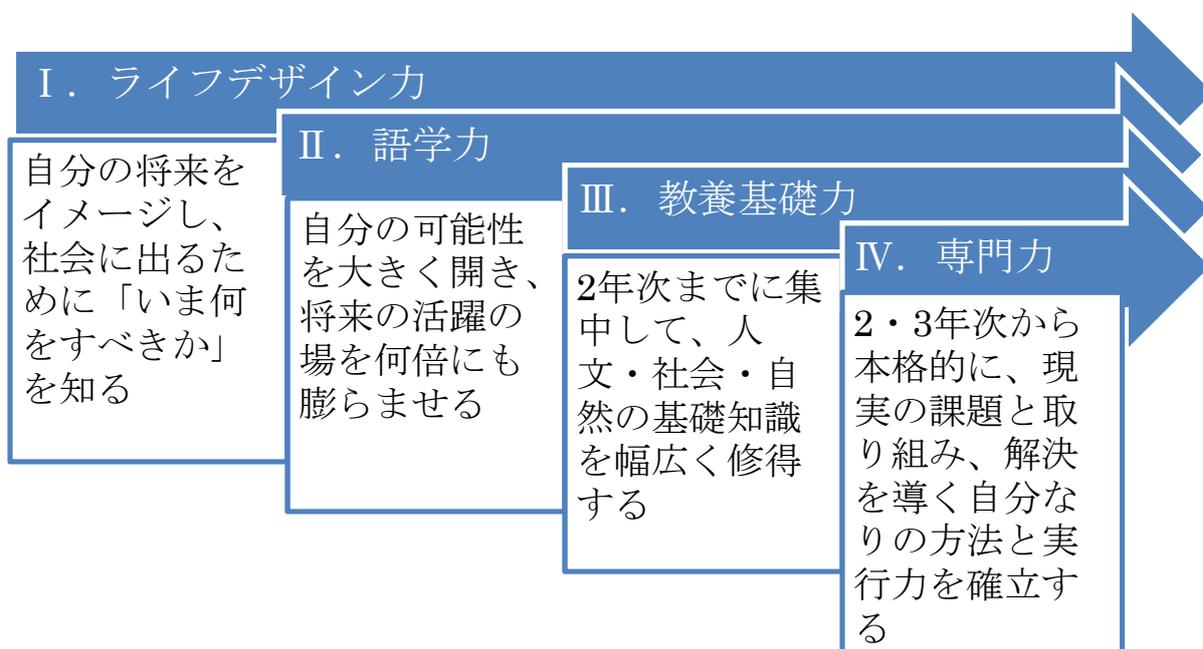
学生生活にはいろいろなことがあります。勉強、友人との時間、アルバイトやクラブ活動。そして、それらの学生生活を経て、皆さんは実社会の現実と向き合うこととなります。この 4 年間、大学での学びの意味を自分なりに深めながら、それを自分の現在と未来に関連づける作業を一人ひとりが行いながら、未来の進路を探っていきます。進路の決定は早いに越したことはありませんが、焦らずじっくり考えてください。目安として、2 年次に進路を仮決めし、変更も含めてさらに準備を重ね、3 年次秋学期から本格的な「就活」など、進路決定の活動が始まります。



「就活」や「進路」といっても何か特別な話ではありません。そこで試されるのは、大学生として当然身につけておくべき力です。皆さんが学生生活をとおして多くのことを学び、経験を重ねて獲得した自分の実力といえるでしょう。文学部は、それは四つの「力」であると考えています。

すなわち、学生生活をきちんと自己管理し、責任ある社会人としての未来を描くことのできる「**ライフデザイン力**」、自分の未来の可能性を大きく広げる「**語学力**」、人間と社会と文化について古今東西の知恵から学び理解する「**教養基礎力**」、そして現実の課題を発見し、その深い追究によって解決を指向する「**専門力**」という**四つの「力**」です。

まず大学に入学して最初の2年間は、「**教養基礎力**」を、**共通科目**と**イントロダクトリー科目**（文学部専門科目）をとおして徹底的に修得します。同時にこの2年間は未来の可能性を開く「**語学力**」の修得に力を入れます。そのうえで2・3年次以降いよいよ本格的に修得する「**専門力**」については、**ベーシック科目**（文学部専門科目）を土台にして、**演習（ゼミ）**等の**アドヴァンスト科目**を通して段階的に深めていきます。こうした学びの中で将来を見据えた「**ライフデザイン力**」を鍛え、学びの成果を、4年次の12月に提出する「**卒論**」として集大成し、晴れて卒業の日を迎えます。



まだはっきりとイメージしにくいかと思しますので、さらに詳しく説明していきましょう。カリキュラムの具体的な内容が、**四つの「力**」とどのように対応しているのか。大きく示すと、次の頁のような全体図になります。

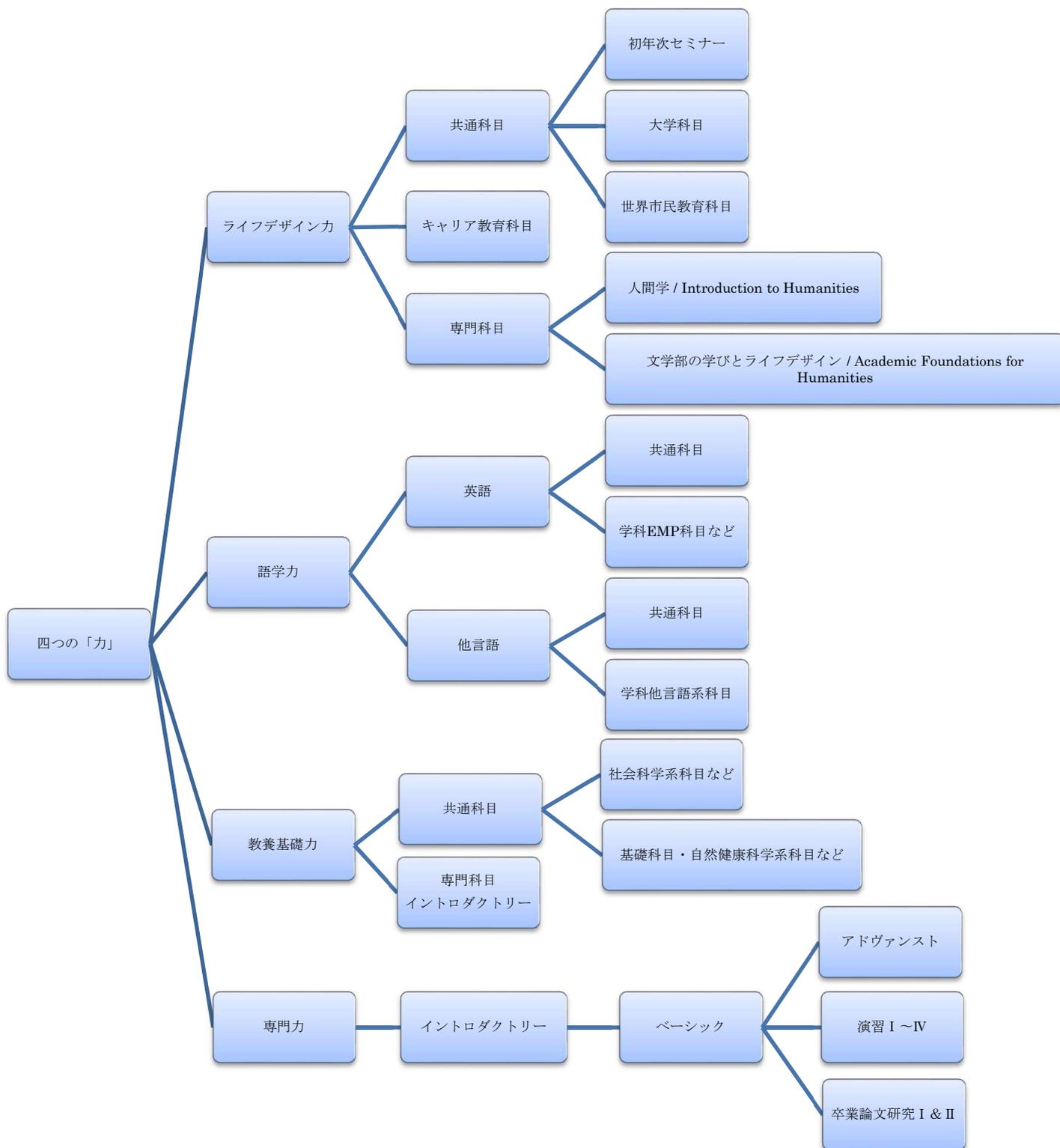
#### ☆すべては「初年次セミナー」からはじまる

文学部の学びは、この**四つの「力**」をカリキュラムを通して修得する過程にほかなりません。カリキュラムの最大の特徴は、一人ひとりの将来の夢を実現するのにふさわしい科目を自由に履修しながら、これら**四つの「力**」を体系的に修得できるようになっていることです。自由に履修してよいといわれると、どんな科目を履修すべきかと迷ってしまうところですが、決して心配することはありません。

カリキュラムでは、みなさんの関心に沿って適切な科目を効率的に履修できるように、1年次春学

期の必修科目として「初年次セミナー」（共通科目・学科共通必修科目）があります。担当教員のきめ細やかなアドバイスを得て、みなさんはここでオーダーメイドの履修計画をつくるスキルを学びます。その意味でこの「初年次セミナー」は、四つの「力」を修得するすべての出発点となります。

では、ここからいかにライフデザイン力を伸ばし、語学力をみがき、教養基礎力を蓄え、専門力を身につけていけばいいのでしょうか。



## I. ライフデザイン力を伸ばす

大学に入ったばかりの頃は、「将来をイメージする」といってもなかなかぴんとこないかもしれません。「将来をイメージする」とは、社会の中の自分を見つめることです。自分の理想とする人生とはいかなるものか。社会の中で自分はいかに生きるのか。こうした社会と自分の関係が問われています。

では、いったいどのようにしたら社会の現実に照らして、自分の将来を思い描くことができるようになるのでしょうか。私たち文学部は、少なくとも次の二つの点が重要だと考えています。

- 一 自分の人生の理想を徹底的に思索し、自分なりの社会観、世界観、歴史観を持つこと。
- 二 実際の社会で活躍する先輩を知ること。そこに自分の現状を投影して、理想と現実のギャップを自覚し、理想への道りを自分の中でイメージできるようになること。

どんな社会であっても、つまるところは一人ひとりの人間がこれを構成しています。「良い」社会も、「悪い」社会も、そこに生きる人間で決まります。しっかりとした社会観なり世界観を身につけておくことは、社会に出て行くために必要です。そのために、進路を模索している1年生の段階で、まず共通科目の「**大学科目**」(4単位)を履修してください。ここでは、創価大学の創立の精神と社会的責務を学ぶことができます。

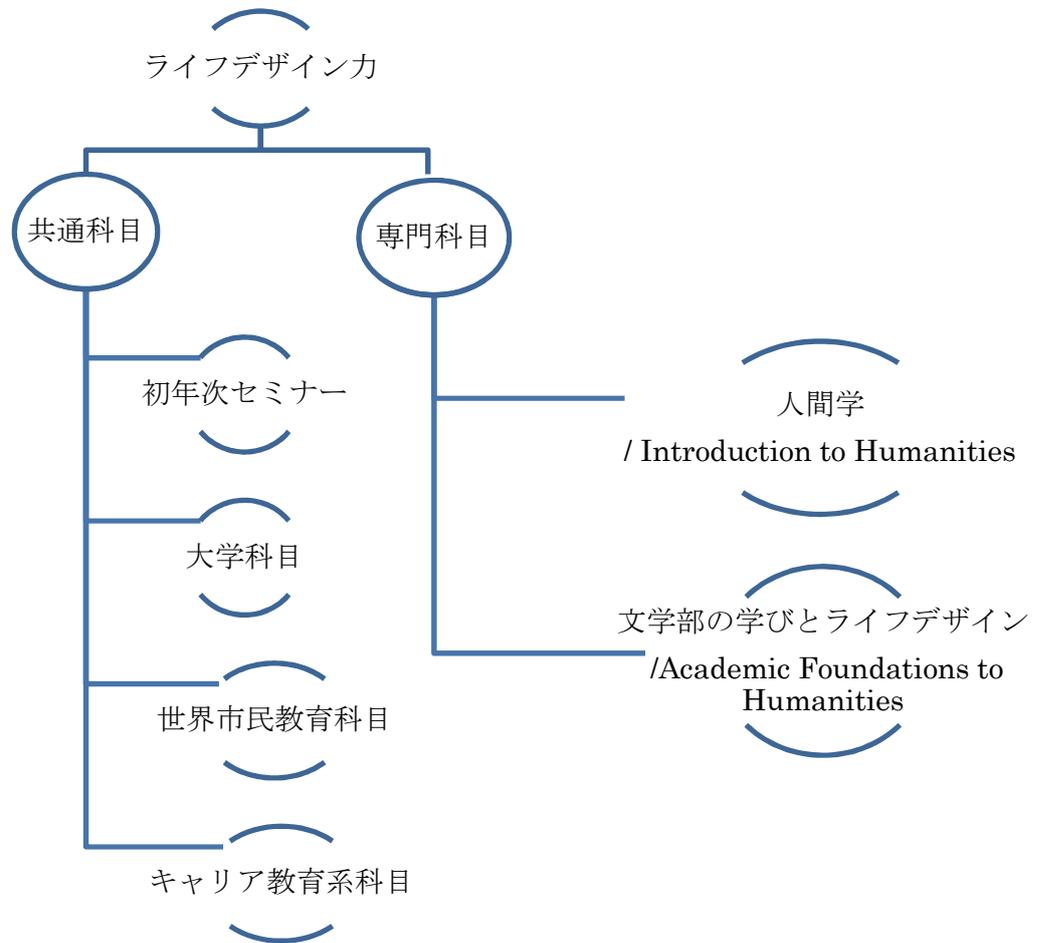
また、同じく共通科目の「**世界市民教育科目**」(4単位)を履修して下さい。世界市民として必要な広い視野や資質について学びます。また、卒業要件にはなっていませんが、「**キャリア教育系科目**」は積極的に履修することをお勧めします。自分の未来について考える貴重な機会を提供してくれるはずです。

これらの科目群をとおして、皆さんは、学問的な学びだけでなく、学生時代に努力を重ね社会で活躍する人々の姿などに触れ、自分の未来の姿を重ね合わせることができます。「いったいどのようにすればあのようなになれるのか。」この素朴な問いを自問することができれば、それはすでに大きな前進です。将来の理想と今の自分のあいだのギャップを知ることが、すべての前提となるからです。

そのうえで、文学部専門科目では選択必修科目の「**人間学**」か「**Introduction to Humanities**」を履修して下さい。創大文学部での学びの意味について一人ひとりに考えを深めてもらう科目です。これらをとおして1年生の早い段階から創大生としての、そして文学部生としてのあり方を自分なりに考えていくことが、皆さんのより良い未来につながると信じます。

以上のすべての局面にわたって、「**初年次セミナー**」の担当教員がアドバイザーとなってみなさんを全面的にサポートしていきます。この科目は、後で説明する教養基礎力を磨く科目の履修指導のほか、レポート作成などに必要な初歩的なスキルも学びます。また、2年次の春学期には「**文学部の学びとライフデザイン**」(「**Academic Foundations to Humanities**」と**選択必修**)があり、文学部で

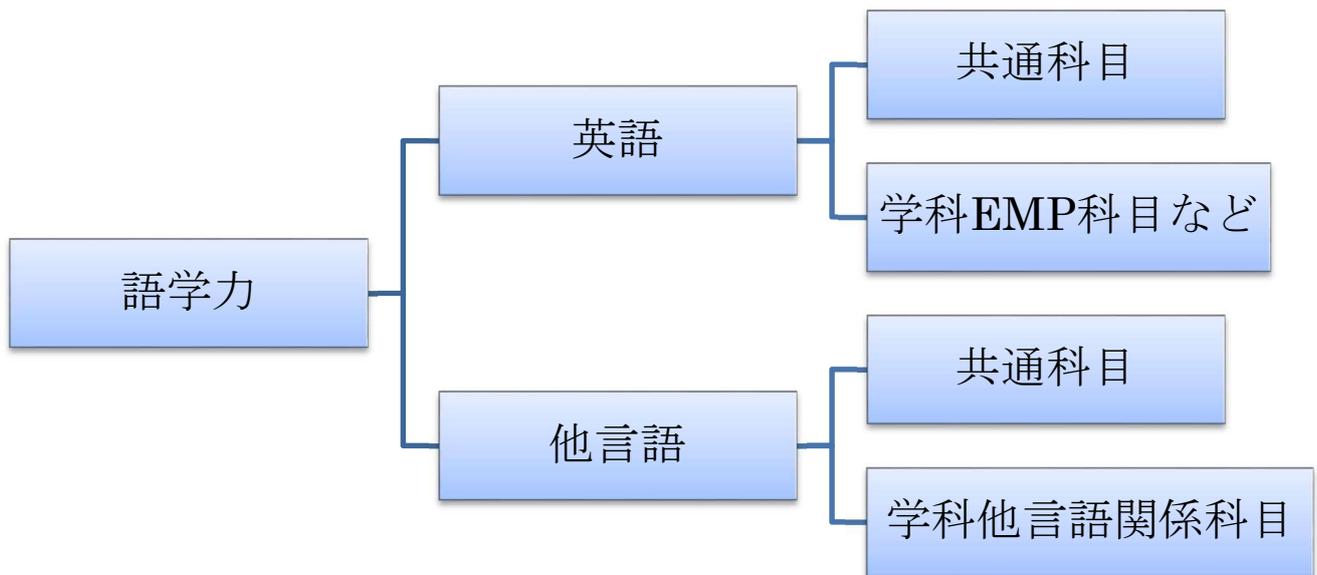
の学びの意味と未来のライフデザインについてさらに考えを深めていきます。



## II. 語学力を磨く

次に語学力についてです。大学として、また文学部として、語学に関する科目も入学時から積極的に学習できるようカリキュラムが組まれています。

特に文学部は、語学を学ぶには最適の学部です。英語はもとより、中国語、ロシア語、ドイツ語、スペイン語など多様な**外国語**を本格的に学べるのは文学部だけです。また、日本や外国で日本語教師になりたい人や日本を世界に発信しながら多様な人々と交流したい人にも、やはり文学部が最適です。「語学の文学部」は「英語+1」の多彩な語学学習環境を備えています。



まず、創価大学のすべての学生は、共通科目の「言語科目」として、英語 6 単位と他言語 4 単位を履修します（看護学部を除く）。そして「語学の文学部」を自負する文学部としては、これらの共通科目に加えて学科 EMP 科目※などの語学関係科目を多くそろえていますので、是非積極的に挑戦してください。なお、卒業には専門科目の「学科グローバル科目」の中から 2 単位を取得する必要があります。

※EMP とは English Medium Program のことで、英語で各学部学科の専門科目を学ぶプログラムのことです。文学部においては、文学や歴史、哲学や平和などの問題を英語で学ぶ科目群となっており、AKADEMIA プログラムと呼んでいます。詳細は「2.英語を総合的に学ぶ人のための履修ガイド」を参照して下さい。

ネイティブスピーカーとの実践的な学びを通して、語学力だけでなく、国際感覚も磨くチャンスを手に入れて下さい。より専門的な能力を獲得するために国内・海外大学院に進学を希望する皆さんにとっても、語学力は合否を左右する重要な要素です。就職と進学とを問わず、語学は未来の可能性を何倍にも開くことでしょう。

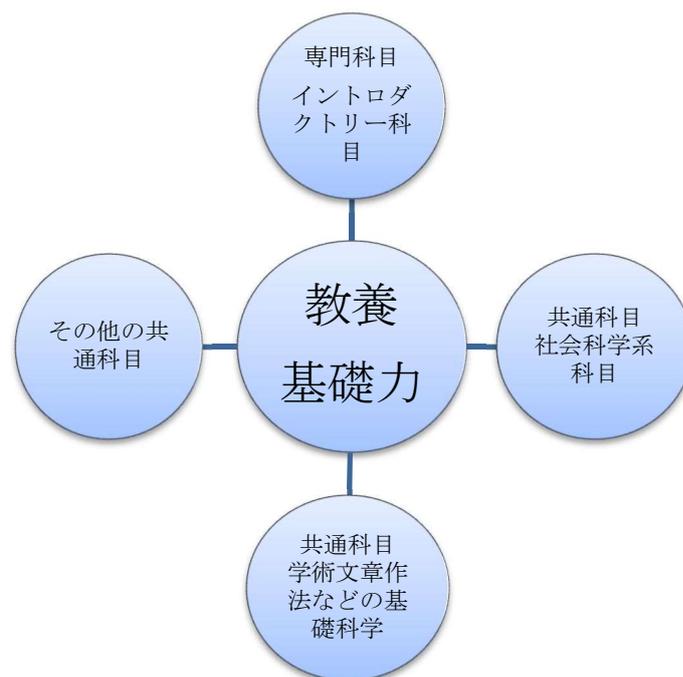
### Ⅲ.教養基礎力を蓄える

「教養」とはなにかを定義するのは難しく、いつの時代でも「教養とは何か」と問われ続けてきた一方で、大学においてさしあたり「教養科目」という場合には、専門科目を学ぶ前に学生が広く修得すべき**基礎知識全般**を指すものとして一般的に理解されてきました。

共通科目として「社会科学系科目」や「自然・健康科学系科目」、「世界市民教育科目」などが多く配置されているのは、このような考えに基づくものです。2年次修了までに、これらの共通科目を幅広く履修して下さい。（なお、共通科目からは「初年次セミナー」と「言語科目」のほかに、「基礎科学科目」として「学術文章作法」2単位、「基礎数学」・「統計学」・「コンピューターリテラシー」から2単位、「大学科目」4単位、「世界市民教育科目」4単位、社会科学系科目2単位の取得が選択必修になります。）

＊「基礎科学科目」2単位（共通科目：「初年次セミナー」2単位と学術文章作法2単位の他に、「基礎数学」・「統計学」・「コンピューターリテラシー」から2単位）

共通科目の基礎科学科目群については、大学生として基本的な数学知識を扱う「**数学基礎**」や、さまざまな情報を整理して分析するのに必要な統計的知識を扱う「**統計学入門Ⅰ・Ⅱ**」、あるいは「**コンピューター・リテラシーⅠ・Ⅱ**」は、社会人として最低限求められる数理能力を身につけておくという意味で、卒業要件を踏まえて選択し、履修して下さい。



＊「世界市民教育科目」4単位以上（共通科目）

人類の幸福と平和を指向しながら教養ある世界市民としての資質を磨くために、共通科目の中に設けられている科目群です。**平和や環境、ボランティアや留学に関係する科目、逆に身近な地域や日本に関する科目**などがあります。文学部生は、これらの科目の中から2科目4単位以上を取得することが卒業要件になっていますので、自身の関心や目的に沿って選択し、履修して下さい。

＊「社会科学系科目」2単位以上（共通科目）

この科目群に関しては、まず政治/法律と経済の基礎知識を身につけるという意識で履修して下さい。政治/法律系の科目は、「**法学入門**」、「**日本国憲法**」、「**政治学入門**」があり、経済系の科目は「**ミクロ経済学入門**」「**マクロ経済学入門**」「**経営学入門**」があります。たとえば、1年次に政治/法律系の科目を履修し、2年次に経済系の科目を履修するなどして、政治/法律と経済の一般的基礎知識を一通り学習することを目指して下さい。

大事なことは、文学部生が政治や法律や経済にも強くなることです。事実、3年生になって「就活」が本格化すると、政治・法律・経済の基礎知識を十分に身につけてこなかったことを後悔する文学部生がいるようです。大学でこのような専門科目を学ぶ機会が少ない文学部生に対して、社会が要請するハードルが高いというのも現実です。逆に言えば、人文的教養に長けた文学部生が社会科学系の一般的基礎知識をきちんと修得することは、社会をリードし自身の夢の可能性を大きく広げることにもつながります。

なお、「社会科学系科目」には、ほかに「社会学入門」、「心理学入門」、「教養地理学」、「教育学入門」がありますが、「社会学」は文学部の専門科目で学ぶことができますし、他の科目は、たとえば教師志望の学生が教職課程での学びの必要から履修する場合もあるでしょう。基本的には政治・法律・経済分野の科目を優先的に取り、そのうえで自身の関心に沿ってこれらの科目を履修すれば、それだけ基礎学力の裾野が広がることになります。

#### **\*人文科学系科目～専門科目イントロダクトリー科目（3科目6単位以上）から**

共通科目には、哲学、文学、歴史学などの人文科学系科目群がありますが、文学部ではこれらの共通科目を選択必修科目に含めていません。人文科学を学ぶ文学部なのにどうしてなのかと不思議に思われるかもしれませんが、文学部はそもそも人文科学系科目を軸に学びを深める学部ですから、学部の専門科目を履修することで人文的教養を身につけることができるため、あえて共通科目の同分野を履修することを卒業要件としていません。

一方、専門科目では、**イントロダクトリー科目**として13科目（26単位）が用意されています。基礎科学と社会科学系科目などを共通科目で学ぶ一方で、文学部生は2年次修了までに**イントロダクトリー科目**を幅広く履修して人文科学の基礎を学び、教養基礎力全般を高めることができます。

この**イントロダクトリー科目**には、具体的に「人間学」、「Introduction to Humanities」、「世界文学への招待」、「表現文化論入門」、「国際日本学への招待」、「Global Japan Studies」、「異文化コミュニケーション」、「歴史学への招待」、「哲学・思想への招待」、「言語文化への招待」、「Human and Society」、「現代社会研究への招待」、「社会福祉入門」があります。多様なラインナップにあふれていますが、まず1年次の春学期に、選択必修科目のほか自分の興味のある科目を履修しましょう。そして、1年次の秋学期には、将来の専門をある程度意識して、関係する科目を重点的に履修して下さい。

## **IV.専門力を身につける**

### **\*イントロダクトリー（選択必修・選択 合計6単位以上）**

次に専門力についてです。専門力の第一段階は**イントロダクトリー科目**です。上に説明した**イントロダクトリー科目**は文学部の専門科目群ですが、それだけでなく、文学部が提供する「8メジャー1

専修」の導入科目としての役割も担っています。すなわち、イントロダクトリー科目は本格的な専門研究を始めるための文字どおりのイントロダクションでもあります。

このイントロダクトリー科目を卒業までに最低 6 単位取得してください。なお、**2 年次秋学期に自分のメジャーと所属のゼミを選択**する際には、そのメジャーが開講するイントロダクトリー科目（**選択科目**）を**2 単位取得**していることが望ましいです。

実際、専門力を身につけるには、基本から応用への段階的な学習が必要です。文学部では、先に示したように、1 年次から履修できる**イントロダクトリー科目**、同じく 1 年次から履修できる**ベーシック科目**、そして 2 年次および 3 年次以降により発展的な専門科目として学ぶ**アドヴァンスト科目**と三段階に分けて、各科目の性格を明示しています。

#### **\*ベーシック（選択必修・選択 合計 26 単位以上）**

専門科目の第二段階としてベーシック科目があります。各専門分野の基本となる知識を理解し身につけ、思考力・判断力・鑑賞力などの必要な能力を鍛えていく科目群です。**2 年次秋学期のゼミ決定時までに**、上に記した点に留意して**イントロダクトリー科目**を学ぶと同時に、自分が希望するメジャーの**ベーシック科目**を中心に履修して下さい。

選択必修科目の「**文学部の学びとライフデザイン**」／「**Academic Foundations to Humanities**」**2 単位**のほかに、**選択科目**を 24 単位、卒業までに**合計 26 単位以上**を取得します。どんな**ベーシック科目**を履修すべきかは、履修要項の科目表をみればわかりますし、本冊子に記載の各メジャーごとの履修モデルも参考にして下さい。

なお、3 年次春学期のメジャーと**演習（ゼミ）登録**にはそのメジャーの**イントロダクトリー科目 2 単位**とともに、**ベーシック科目（選択科目）2 単位**の取得が条件になっています。

#### **\*アドヴァンスト（必修・選択 合計 28 単位以上）**

専門科目の第 3 段階は**アドヴァンスト科目**です。より専門的な発展科目であり、科目によって 2 年次から履修できます。専門的な知識と能力をさらに高めるとともに、それらを用いて新しい知識を創造していきます。また、現実のさまざまな問題解決を指向する姿勢や資質を身につけていきます。

アドヴァンスト科目は必修科目である「**演習（ゼミ）**」（Ⅰ～Ⅳ）・「**卒業論文研究**」（Ⅰ・Ⅱ）と、各メジャーの**選択科目**からなっています。「**演習（ゼミ）**」は、10~15 人前後の少人数で教員と学生とが、また学生どうしが、最先端の議論を織り交ぜながら濃密に意見を交わす重要な学びの場です。文学部は、この**ゼミ**をとおした**少人数教育**を重視しています。科目表にある必修科目「**演習Ⅰ**」（3 年春学期）、「**演習Ⅱ**」（3 年秋学期）、「**演習Ⅲ**」（4 年春学期）、「**演習Ⅳ**」（4 年秋学期）がこ

れに当たります。ゼミは基本的に同じ担当教員とともに2年間学びます。

また、4年間の学びの集大成として各自の研究を「**卒業論文**」にまとめていきます。論文を執筆することは大変ですが、これまで身につけたアカデミックスキルを総動員して論文に仕上げる作業は、自分が専攻する学問の知識や方法論や能力を体得するだけでなく、人間的成長をはじめ、問題設定力や問題解決力など社会に出てからも大いに役立つ資質と能力を身につけることができるでしょう。自分が所属する**演習（ゼミ）**の担当教員のもとで4年次に「卒業論文研究Ⅰ」（春学期）「卒業論文研究Ⅱ」（秋学期）を通じて執筆の指導を受け、最終的に16,000字以上の卒業論文を秋学期12月初頭までに書き上げます。その後、面接による口頭試問を受けることになります。

なお、アドヴァンスト科目の履修は、各ゼミの教員が示す「**ゼミ履修モデル**」を参考にして下さい。「**ゼミ履修モデル**」は、メジャーにかかわらず文学部生全員が参考にできるように文学部ホームページに公開されています。これには各ゼミの専門研究に直結する科目をピンポイントで示していますので、それ自体が学習を進めるうえで頼もしい道標となるでしょう。**アドヴァンスト科目は、卒業までに合計28単位以上の取得が必要です。**

#### ☆文学部を卒業して社会へ

こうして晴れて入学し、充実した4年間の学生生活を過ごした皆さんは、2024年の3月にはいよいよ社会へと大きく羽ばたいていきます。文学部生には企業就職の他に、**教員**や**公務員**、通訳や翻訳など語学を生かした**専門職**、あるいは国内や海外の**大学院**に進学するなど、多くの進路が開かれています。文学部のカリキュラムは、未来の可能性に満ちた皆さんを応援するためにあります。皆さん一人ひとりが夢や将来の希望をもって未来を切り開いていかれることを念願します。

わからないことがあれば、どんな小さなことでも、気軽に問い合わせして下さい。創価大学のWEBサイトにある文学部のホームページには、教員やゼミの紹介もあります。教員のEメールアドレスも公表（一部非公開）しています。自分の勉強したいことについて、直接教員に相談するのもいいでしょう。未来に羽ばたく皆さんに、文学部の扉は常に開かれています。

## 2.英語を総合的に学ぶ人のための履修ガイド

文学部の学生が英語の総合的な力をつける科目は大きく次の①～⑤の5つに分れます。※英語教員を目指す人は⑥をご覧ください。

### ① 共通科目の英語科目群

1-2年次に英語6単位と第2外国語・4単位を修得しなければなりません。TOEICのスコアによりレベル別の履修科目になります。履修要項や英語共通科目のシラバスをよく読んで、自分のレベルと目標にあった英語科目を履修してください。

### ② 文学部のグローバル科目の英語群

グローバル科目とは、科目表にGと記載された科目で、卒業要件として2単位以上を修得しなければなりません。英語以外のほかの言語(中国語・ロシア語など)を履修してもよい。1-2年次では、下の受講基準表にしたがって、自分のスコアに対応するグローバル科目英語を履修しましょう。

文学部グローバル科目英語の受講基準

文学部グローバル科目の英語群(2単位以上)		
D: TOEIC490点以上、 あるいはL&RとS&W の合計点が790点以上	Literature I Peace Studies I Cultural Representation I	Literature II Peace Studies II Cultural Representation II
C+: TOEIC490点以上、 あるいはL&RとS&W の合計点が790点以上	Academic Writing B I	Academic Writing B II
C: TOEIC 400-485点、 あるいはL&RとS&W の合計点が645-785点 B:レベルでも履修可	時事英語 B I 英米文学講読 I	時事英語 B II
B: TOEIC290-395点、 あるいはL&RとS&W の合計点が466-640点	Academic Writing A I Oral Communication in English I 時事英語 A I 英語翻訳入門 I	Academic Writing A II Oral Communication in English II 時事英語 A II 英語翻訳入門 II
A: TOEIC290点未満、 L&RとS&Wの合計点 が466点未満	グローバル科目の英語の設置科目なし 共通科目のEnglish I・IIで学び、レベルをBに上げたあとにグローバル科目英語のBレベルを履修する。あるいは、他の外国語(中国語・ロシア語・ドイツ語・スペイン語)を履修する。	

TOEICのレベルが490以下、あるいはTOEIC L&RとS&Wの合計点が790点未満で、下記のAKADEMIAの科目を履修できない学生は、グローバル科目を履修してスコアのクリアを目指してください。そして、シュリーマン賞(学内表彰)を多くの学生が獲得できることを期待しています。

### ③ 英語で学ぶ特別プログラム：AKADEMIA (EMP)

履修要項に明記されているように、各学部には英語で学ぶ科目(EMP 科目)が一定数配置されており、そのうち、どの学部の科目であるかに関係なく合計 24 単位を修得すると EMP 修了が認定されます。この EMP 修了を文学部の配置科目だけで認定された場合は文学部独自の AKADEMIA プログラム修了として認定します。

AKADEMIA とは、Arts, Knowledge AnD English Major for International Arena の略です。文学部では英語で学ぶ科目(English Medium Program)を多く提供しています。このプログラムでは、文学、文化、哲学、歴史、平和学などを英語で学んで、国際的に活躍をする世界市民の育成を目指しています。英語で行われる授業だけで卒業することも可能です。また、英語圏などからの留学生も履修することができます。日本にいながら、留学しているような環境で学ぶことができます。このコースを受講できるのは、TOEIC のスコアが 490 点以上、TOEIC L&R と S&W の合計点が 790 点以上、あるいは英検2級を取得している日本人学生です。授業科目は次の通り。

授業科目	単位	履修 年次
イントロ科目(1年次)3科目 6単位		
Introduction to Humanities	2	1
Global Japan Studies	2	1
Human and Society	2	1
ベーシック科目(1-2年次)14科目 28単位		
Introduction to Linguistics	2	1
Interpersonal Communication	2	1
Comparative Culture I	2	2
Comparative Culture II	2	2
Philosophy I	2	1
Principles of History	4	1
Literature I	2	1~4
Literature II	2	1~4
Peace Studies I	2	1~4
Peace Studies II	2	1~4
Cultural Representation I	2	1~4
Cultural Representation II	2	1~4
社会学史概説(英語クラス)	2	2

授業科目	単位	履修 年次
アドバンスト科目(2-4年次)13科目 26単位		
English in Society	2	2
English in Institutions	2	2
Global Communication	2	2
Intercultural Communication	2	2
Translation Studies	2	2
Philosophy II	2	2
Text Studies I	2	2
Text Studies II	2	2
Peace Studies Workshop I	2	3
Peace Studies Workshop II	2	3
Special Lecture A	2	2
Special Lecture B	2	2

#### AKADEMIA の履修について

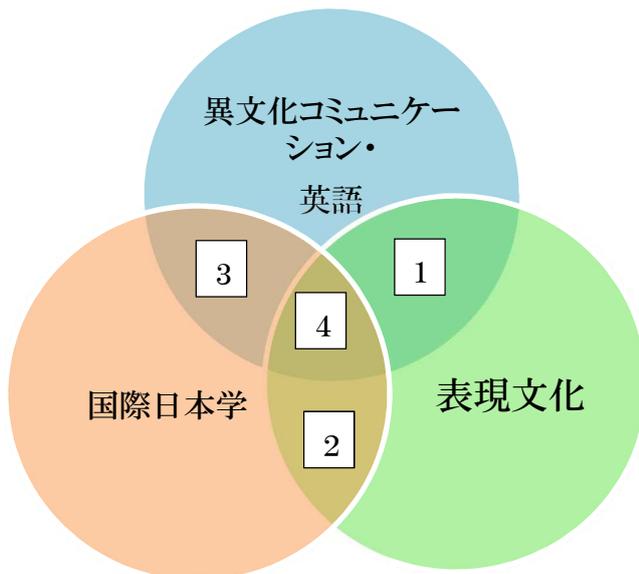
AKADEMIA の個々の科目は 1 年次から履修できますが、プログラムとしての履修申請は2年次からになります。その際、申請時に通算 GPA が 2.70 以上であることが必要です。上記科目を 12 科目 24 単位以上修得して、かつ卒業時の通算 GPA が 2.70 以上であれば、このプログラムの修了が認定されます。受講資格を満たしていない方は、次のグローバル科目(=Pre English Medium Program)などを履修して TOEIC490、あるいは TOEIC L&R と S&W の合計点が 790 点以上か英検2級の取得を目指して勉強してください。

Academic Writing AI-II、Academic Writing BI-II、Oral Communication in English I-II

#### ④ 3つのメジャーで英語を学ぶ：

##### 異文化コミュニケーション・英語／表現文化／国際日本学

異文化コミュニケーション・英語メジャー・表現文化メジャー・国際日本学メジャーやそのゼミに所属することによって英語力を養成したり、英語に関する専門的な研究ができます。2年次春学期の履修登録時にこの3つのメジャーにマイナー(副専攻)登録をしておき、さらに勉強して、その中から自分の関心や将来の目標に応じて、ゼミが決定した後、どれかをメジャー登録します。メジャー登録をするためには、各メジャーが指定するイントロダクトリー科目2単位とベーシック科目2単位を修得する必要があります。各メジャーとそのメジャーのゼミ履修モデルも参考にしてください。



異文化コミュニケーション・英語では、英語に関する次のような専門科目があります。コミュニケーション理論・第二言語習得理論・通訳翻訳・英語教育に関する領域を学びます。コミュニケーション理論の授業の多くは英語で行われるため、高度な英語力が必要です。その他、英語はどのような言語なのかについて学ぶ科目もあります。英語の文法、発音、歴史、日本語と英語の違い、日英語の認知の仕方の違いなどを学びます。

表現文化メジャーにある英米文学や演劇の科目では、諸作品を英語の原文で読んでいきます。ここでも原書を読むための高度な英語力を養いつつ、文学の素養も身につけていきます。国際日本学では、日本について英語で紹介することを学ぶ科目があります。

英語を学びたい学生は関心のある分野や将来の希望などを考慮して、この3つメジャーから自由に科目を選択してください。多くの科目がAKADEMIAの科目と重複していますので、このプログラムを修了することもできます。この英語関係の科目をもつ3つのメジャーでは、それぞれのメジャー科目に他のメジャーの科目の一部を受け入れています。この3つのメジャーでは次のとおり科目が重複しています。メジャー登録やゼミ選択の参考にしてください。特に、英語教員を目指す人は指定されている英語教職科目の中から総合的な英語力をつけることを目標にして、広い範囲の履修科目を選択しましょう。各科目の詳しい授業内容はシラバスで確認をしてください。

▶ 上図の **1**：異文化コミュニケーション・英語と表現文化の2つのメジャーに共通する科目

時事英語をのぞく英語グローバル科目のほか、ベーシック・アドバンスト科目では次の通り。

ベーシック：英語学概論 I・II、Introduction to Linguistics、比較文化 I・II、英米文学概論 I・II、英文法研究 I・II、英語音声学、日英語比較概説など。

アドバンスト：英語翻訳演習 B、Text Studies I、Peace Studies Workshop I・II

▶ 上図の **2**：表現文化と国際日本学の2つのメジャーで共通する英語関連科目

ベーシック：Academic Writing A I・II、Oral Communication in English I・II、Comparative Culture I・II = 上図 **4** の共通する科目と同じ

アドバンスト：Text Studies II = 図 **4** の共通する科目と同じ

- ▶ 図の **3** :異文化コミュニケーション・英語と国際日本学の2つのメジャーで共通する科目  
 ベーシック:Global Japan Studies、Human and Society、Academic Writing B I・II、  
 英語で日本紹介 I・II、英語翻訳演習 A、英語通訳演習 A。  
 アドバンスト: Intercultural Communication、英語通訳演習 B、Translation Studies、日英語比較研究  
 など。
- ▶ 図の **4** :3つのメジャー共通する英語関連科目  
 ベーシック: Literature II、Peace Studies II、Cultural Representation II、Academic Writing A I・II、  
 Oral Communication in English I・II、Comparative Culture I・II  
 アドバンスト: Text Studies II

## ⑤ 留学制度も利用する

- a. 文学部では、英語圏へは次の3つの留学制度があります。申し込み時期を逃さないようにメールのお知らせや募集の掲示ポスターに注意してください。(コロナ禍で実施を中止する場合があります)
  - ★バッキンガム大学へのダブル・ディグリーコース留学(最大5名)募集時期4月(説明会は4月始めの「文学部留学準備プログラム」ガイダンス)
  - ★バッキンガム大学への夏季短期語学研修(12-14名) 募集時期 4月(説明会 4月頃)
  - ★春季インド・デリー短期語学研修(10名) 募集時期 9月頃(説明会 7月頃)
- b. 大学の留学制度
  - ▶ワールド会の留学相談室を訪れる。
  - ▶国際課からの留学生の募集情報に注意する。  
 交換留学、認定留学、夏季・春季短期語学研修などがある。→詳しくは国際課へ
  - ▶派遣先の大学はTOEFL-iBTやIELTSのスコアによる受け入れ制限をしているので、規定のスコアをクリアするために勉強をしておくことが大事です。また派遣留学の希望者の多い海外の大学では、TOEFLのスコアの高い学生やGPAの高い学生が有利になります。留学を目指す人はTOEFLやIELTS対策の授業を受けることを勧めます。  
 その他、私費で留学する学生も多くいます。

## ⑥ 英語科教員を目指す場合

中学高校の英語教員を目指す人は教職キャリアセンターのガイダンスに出席をして英語に関する科目以外で修得しなければならない科目(教職科目)は何かを理解してください。また、教職課程の登録費がかかります。詳しくは、最新の『教職課程ガイド』を見てください。

# メジャー履修モデル ① 異文化コミュニケーション《英語》

\* 選択科目については、関心のある言語・科目や希望するゼミ教員の履修モデルにしたがって選択しましょう。

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>【イントロダクトリー：選択必修2単位以上】 人間学 Introduction to Humanities (EMP)</p>	<p>【ベーシック：選択必修2単位以上】 文学部の学びとライフデザイン Academic Foundations for Humanities (EMP)</p>	<p>【アドヴァンスト：必修4単位】 演習Ⅰ 演習Ⅱ (EMP含む)</p>	<p>【アドヴァンスト：必修10単位】 演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業論文研究Ⅰ 卒業論文研究Ⅱ (EMP含む)</p>
<p>【イントロダクトリー：選択科目4単位】 メジャー修了認定条件＝選択科目4単位のうち以下の□から2単位</p> <p>異文化コミュニケーション 言語文化への招待 Global Japan Studies (EMP) Human and Society (EMP)</p>		<p>&lt;その他推奨科目&gt; 世界文学への招待，表現文化論入門</p>	
<p>【ベーシック：選択科目24単位】メジャー修了認定条件＝選択科目から24単位</p> <p>第二言語習得論入門 英語学概論Ⅰ・Ⅱ 英語翻訳演習A 英語通訳演習A 英米文学概論Ⅰ・Ⅱ 英文法研究Ⅰ・Ⅱ 比較文化Ⅰ・Ⅱ 英語音声学 国際交流と日本社会 日英語比較概説 英語で日本紹介Ⅰ・Ⅱ 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ Introduction to Linguistics (EMP) Comparative Culture I/II (EMP) Cultural Representation I/II (EMP) Peace Studies I/II (EMP) Philosophy I (EMP) History I (EMP)など</p>			
<p>【グローバル科目（ベーシック）】メジャー推奨単位数＝4単位（卒業要件2単位以上）☆2・3年次の修得を推奨 Academic Writing AI, Academic Writing AII, Academic Writing BI, Academic Writing BII など英語で論文を書くための科目など</p>			
		<p>【アドヴァンスト：選択科目14単位】メジャー修了認定条件＝以下の選択科目から14単位</p> <p>第二言語習得論 近代英語史と文化 認知英語学 英語翻訳論 Text Studies I/II(EMP) English in Society(EMP) English in Institutions(EMP) 英語翻訳演習B 英語通訳演習B 中・古期英語史と文化 日英語比較研究 Intercultural Communication(EMP) Global Communication(EMP) Philosophy II(EMP) History II(EMP) 社会言語学 英語特講 A/B Special Lecture A/B (EMP) 英語科教育法Ⅲ・Ⅳなど</p>	
<p>【共通科目】☆1・2年次の修得を推奨</p> <p>① 基礎科目：初年次セミナー（2単位），学術文章作法（2単位）， 基礎数学、統計学、コンピューター・リテラシーの中から2単位 ②大学科目（4単位） ③言語科目（10単位） ④世界市民教育科目（4単位）平和学入門，世界市民教育演習など ⑥社会科学系科目（2単位）心理学入門，教育学入門など</p>			

EMP=English Medium Program \* 下線が付されている EMP=副専攻修了要件科目

## メジャー履修モデル ② 異文化コミュニケーション《日本語》

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>【イントロダクトリー:2単位以上】 人間学 Introduction to Humanities(EMP)</p>	<p>【ベーシック:2単位以上】 文学部の学びとライフデザイン Academic Foundations for Humanities</p>	<p>【アドヴァンスト:4単位】 演習Ⅰ 演習Ⅱ (EMP含む)</p>	<p>【アドヴァンスト:10単位】 演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業論文研究Ⅰ 卒業論文研究Ⅱ (EMP含)</p>
<p>【イントロダクトリー】4単位以上修得(メジャー登録必須科目(☆2単位以上)を含む) ☆異文化コミュニケーション ☆言語文化への招待</p>			
<p>【ベーシック】卒業24単位以上修得(メジャー修了10単位以上) ☆日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ ☆日本語学概論Ⅰ・Ⅱ ☆言語学概論Ⅰ・Ⅱ ☆日本語コミュニケーション論 ☆対照言語学Ⅰ・Ⅱ ☆日本語音声学 第二言語習得論入門 社会で通用する日本語 国際交流と日本社会 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ 日本古代・中世史概説 比較文化史概論 日英語比較概説 社会調査の基礎 文化人類学 学部インターンシップ 時事英語AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ</p>			
		<p>【アドヴァンスト】卒業14単位以上修得(メジャー修了14単位以上) ☆社会言語学 ☆日本語の表現 ☆日本語の語彙・表記 ☆現代日本語文法A・B ☆日本語教材研究Ⅰ・Ⅱ ☆日本語教授法Ⅰ・Ⅱ ☆日本語教育学特講A・B・C ☆日本語学特講A・B 日本語教授法演習 ☆日本語教育実習 国語科教育法Ⅲ・Ⅳ Special LectureA.B 人間学外書講読</p>	
<p>【グローバル科目】2単位以上修得</p>			
<p>【自由選択科目】38単位以上修得 教職課程(国語)の科目や共通科目・文学部・他学部の専門科目、メジャー専門科目を推奨</p>			
<p>【共通科目】基礎科目6単位(初年次セミナー2単位、学術文章作法2単位、基礎数学、統計学、コンピュータ・リテラシーの中から2単位)、大学科目4単位、世界市民教育科目4単位、社会科学系科目2単位、第1外国語(英語)6単位と第2外国語4単位(同一言語で)計10単位の修得</p>			
<p>【文学部特修プログラム】日本語教育プログラム 日本語教育(基礎)プログラム 【教職課程】国語教員免許</p>			

# メジャー履修モデル ③ 異文化コミュニケーション《中国語》

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>【イントロダクトリー（選択必修）】 卒業要件＝2単位以上 人間学 Introduction to Humanities (EMP)</p>	<p>【ベーシック（選択必修）】 卒業要件＝2単位以上 文学部の学びとライフデザイン Academic Foundations for Humanities (EMP)</p>	<p>【アドヴァンスト（必修）】 演習Ⅰ 演習Ⅱ (EMP含む)</p>	<p>【アドヴァンスト（必修）】 演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業論文研究Ⅰ 卒業論文研究Ⅱ (EMP含む)</p>
<p>【イントロダクトリー（選択）】卒業要件＝4単位以上</p>			
<p>異文化コミュニケーション（専修指定）</p>		<p>言語文化への入門（専修指定）</p>	
<p>【ベーシック】①メジャー認定条件＝以下の科目から10単位以上修得 ②卒業要件＝以下の科目を含めて24単位以上修得</p>			
<p>中国語学入門Ⅰ・Ⅱ 中国語コミュニケーション演習初級Ⅰ・Ⅱ 中国語講読初級Ⅰ・Ⅱ 中国語社会文化入門Ⅰ・Ⅱ</p>		<p>中国語コミュニケーション演習中級Ⅰ・Ⅱ 中国語文法中級Ⅰ・Ⅱ (G)      中国語社会文化論Ⅰ・Ⅱ (G) 中国語講読中級Ⅰ・Ⅱ (G)      中国語作文中級Ⅰ・Ⅱ 中国語総合中級Ⅰ・Ⅱ (G)</p>	
		<p>【アドヴァンスト】①メジャー認定条件＝以下の科目から2単位以上修得 ②卒業要件＝以下の科目を含めて14単位以上修得</p>	
<p>【グローバル科目（ベーシック）】卒業要件＝2単位以上 自分のレベル・関心により選択、上記(G)科目はメジャー推奨科目</p>		<p>中国語コミュニケーション演習中上級Ⅰ・Ⅱ 中国語学中上級Ⅰ・Ⅱ      中国語作文中上級Ⅰ・Ⅱ 通訳演習(日中)A・B      翻訳演習(日中)A・B 通訳演習(中日)A・B      翻訳演習(中日)A・B</p>	
<p>【共通科目】☆1・2年次の修得を推奨</p>			
<p>① 基礎科目 6単位 ② 大学科目 4単位 ③ 言語科目（英語）6単位</p>		<p>③言語科目（他言語）4単位は中国語Ⅰ～Ⅳ推奨 ④世界市民教育科目 4単位 ⑥社会科学系科目 2単位</p>	

# メジャー履修モデル④ 異文化コミュニケーション《ロシア語》

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
【イントロダクトリー:選択必修(2単位以上)】 人間学 Introduction to Humanities(EMP)		【ベーシック:選択必修(2単位以上)】 文学部の学びとライフデザイン Academic Foundations for Humanities (EMP)		【アドヴァンスト:必修(4単位)】 演習Ⅰ 演習Ⅱ (EMP含む)		【アドヴァンスト:必修10単位】 演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業論文研究Ⅰ 卒業論文研究Ⅱ (EMP含む)	
【イントロダクトリー:選択(4単位以上)】 異文化コミュニケーション 言語文化への招待							
【ベーシック:選択(12科目24単位以上)】		【ベーシック:選択(12科目24単位以上)】		【アドヴァンスト:選択(7科目14単位以上)】			
(文法) ロシア語文法入門Ⅰ (週2コマ) (会話) ロシア語発音 トレーニングⅠ(1) (会話) ロシア語コミュニケーション初級Ⅰ(1)G	(文法) ロシア語文法入門Ⅱ (週2コマ) (会話) ロシア語発音 トレーニングⅡ(1) (会話) ロシア語コミュニケーション初級Ⅱ(1)G	(文法) ロシア語文法初級Ⅰ G (文法) ロシア語文法中級Ⅰ G (講読) ロシア語講読入門Ⅰ G (作文) ロシア語翻訳初級Ⅰ (会話) ロシア語コミュニケーション中級Ⅰ(1)	(文法) ロシア語文法初級Ⅱ G (文法) ロシア語文法中級Ⅱ G (講読) ロシア語講読入門Ⅱ G (作文) ロシア語翻訳初級Ⅱ (会話) ロシア語コミュニケーション中級Ⅱ(1)	(文法) ロシア語学Ⅰ (文法) ロシア語学Ⅱ (文法) ロシア語文法上級Ⅰ (作文) ロシア語翻訳上級Ⅰ (会話) ロシア語コミュニケーション上級Ⅱ(1)	(文法) ロシア語文法上級Ⅱ (作文) ロシア語翻訳上級Ⅱ (会話) ロシア語コミュニケーション上級Ⅱ (講読) ロシア語文学講読Ⅰ (講読) ロシア語文学講読Ⅱ (講読) 時事ロシア語	(文法) ロシア語学Ⅲ(1) (文法) ロシア語学Ⅳ(1) (文法) ロシア語学Ⅴ(1) (文法) ロシア語学Ⅵ(1)	(文法) ロシア語学Ⅲ(1) (文法) ロシア語学Ⅳ(1) (文法) ロシア語学Ⅴ(1) (文法) ロシア語学Ⅵ(1)
<語学系科> <地域研究系科>		現代ロシア概論 ロシアの歴史と文化 ロシア文学入門		<語学系科目> <語学・地域研究系科目> <地域研究系科目> ロシア文学 ロシアの社会 ロシアの経済			
1年次は? はじめてのロシア語を体系的かつ効率的に学ぶために 文学部ロシア語特修プログラム科目(8科目12単位)		・科目名の後に(1)とあるのは1単位科目。 ・科目名の後にGとあるのはグローバル科目。					
【外国語科目(共通科目③)】【推奨する第2外国語】(選択必修科目:4単位以上)						共通科目の履修についてのアドヴァイス なるべく留学前に卒業に必要な単位数を修得しておくことを進めます。	
ロシア語Ⅰ(週2コマ) ロシア語Ⅱ(週2コマ)		ロシア語Ⅲ(1) ロシア語Ⅳ(1)		ロシア語Ⅴ(1) ロシア語Ⅵ(1)			
【共通科目】①基礎科目(学術文章作法:2+数理・情報系:2)、②大学科目:4、③英語:6、④世界市民教育科目:4、⑥社会科学系科目:2を含めて20単位以上(初年次セミナー:2、第2外国語:4を含まない)							
【自由選択科目】(38単位以上)							

**留学するなら?**  
留学をより多いものとするために

**1・2年次は語学系科目を週6コマ**  
語学系科目は「聴く」「話す」力を養う(会話系科目)、「読む」力を養う(講読系科目)、「書く」力を養う(作文系科目)、そしてそれらすべての土台となり、言語の構造を理解するための(文法系科目)の4系統に分かれています。語学の学習は、とくに最初の2年間は、これら4系統のすべてにわたって満遍なく、週6コマ以上学ぶのが望ましいとされています。  
モスクワ大学をはじめとするロシアの大学への留学を考えている人は、留学するまでどれだけ力を付けているかで、留学の成果が変わってきますので、1年次での「特修プログラム」への登録はもちろん、2年次の履修においてはこの点をとくに留意して、語学系科目と共通科目とを合わせて週6コマ履修するようにしてください。ちなみに留学選考試験の出題範囲はほぼこの枠内の科目の授業内容となります。

# メジャー履修モデル ⑤ 哲学・歴史学メジャー

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>【イントロダクトリー:選択必修2単位以上】 人間学 Introduction to Humanities(EMP)</p>	<p>【ベーシック:選択必修2単位以上】 文学部の学びとライフデザイン</p>	<p>【アドヴァンスト:必修4単位】 演習Ⅰ 演習Ⅱ * 哲学関係の演習については複数の異なる演習に参加することも可能です。詳しくは</p>	<p>【アドヴァンスト:必修10単位】 演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業論文研究Ⅰ 卒業論文研究Ⅱ(EMP含む)</p>
<p>【イントロダクトリー】</p>			
<p>【ベーシック(哲学中心)】哲学を専門とする場合、哲学に関する幅広い知識を得るために以下のすべてを履修するのが好ましい。 (東洋哲学中心) 仏教思想概論 日本思想史Ⅰ (西洋哲学中心) 哲学概論 西洋哲学史Ⅰ 倫理学概論</p>			
<p>【アドヴァンスト(哲学中心)】自身が専門とする分野(東洋哲学・西洋哲学)の科目は、すべて履修するのが好ましい。 (東洋哲学中心) 東洋思想史 日本思想史Ⅱ 宗教学 哲学・思想特講B (西洋哲学中心) 西洋哲学史Ⅱ 論理学 科学哲学 言語哲学 哲学・思想特講A, B また、自分の専門に関係する「人間学外書講読」の授業や、「ドイツ言語文化研究」などの授業を履修することが好ましい。</p>			
<p>【ベーシック(歴史学中心)】歴史学を専門とする場合、○の科目はすべてを履修するのが好ましい。 (日本史中心) ○比較文化史概論 ○日本古代・中世史概説 (西洋史中心) ○歴史学概論 ○西洋史概説Ⅰ ○西洋史概説Ⅱ (東洋史中心) ○考古学概論 ○東洋史概説Ⅰ ○東洋史概説Ⅱ 中央アジア論 中国近現代の歴史と思想 * 英語科目のPrinciples of Historyの履修も可</p>			
<p>【アドヴァンスト(歴史学中心)】自身が専門とする分野(日本史・西洋史・東洋史)の各科目は、すべて履修するのが好ましい。 (日本史) 日本近世・近現代史概説 古文書学 民俗学 歴史学特講B (西洋史) 西洋文化史 歴史学特講A (東洋史) 東洋文化史 中央ユーラシア史 歴史学特講C</p>			
<p>【ベーシック(哲学・歴史学をともに学ぶ)】自分の学習の目的に合わせて履修する。 (哲学分野) 哲学概論、仏教思想概論の2科目から1つ以上 日本思想史Ⅰ、西洋哲学史Ⅰ、倫理学概論から2つ以上  (歴史学分野)比較文化史概論、歴史学概論、考古学概論の3科目から1つ以上 日本古代・中世史概説、西洋史概説Ⅰ、西洋史概説Ⅱ、東洋史概説Ⅰ、東洋史概説Ⅱの5科目から2つ以上</p>			
<p>【共通科目】 歴史入門 哲学入門 倫理学入門 Introduction to Philosophy</p>			

## メジャー履修モデル ⑥ 表現文化

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>【イントロダクトリー:選択必修2単位以上】 人間学 Introduction to Humanities (EMP)</p>	<p>【ベーシック:選択必修2単位以上】 文学部の学びとライフデザイン Academic Foundations for Humanities (EMP)</p>	<p>【アドヴァンスト:必修4単位】 演習Ⅰ 演習Ⅱ (EMP含む)</p>	<p>【アドヴァンスト:必修10単位】 演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業論文研究Ⅰ 卒業論文研究Ⅱ (EMP含む)</p>
<p>【イントロダクトリー】(4) 世界文学への招待 表現文化論入門</p>			
<p>【ベーシック】(24) 文学研究法入門Ⅰ・Ⅱ 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 書道Ⅰ 日本語コミュニケーション論 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ 日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ 英米文学講読Ⅰ 英米文学概論Ⅰ・Ⅱ イギリス古典文学史、イギリス近代文学史 アメリカ文学史 英語学概論Ⅰ・Ⅱ 日英語比較概説 比較文化Ⅰ・Ⅱ ロシア文学入門  その他EMP科目</p> <p>【グローバル科目】(2)</p>		<p>文芸創作Ⅰ・Ⅱ 日本古典文学講読、日本近代文学講読 日本文学史 書道Ⅱ 英米文学講読Ⅱ 演劇入門 映画論 英文法研究Ⅰ・Ⅱ 英語音声学 英語翻訳演習A 中国文学Ⅰ・Ⅱ ロシア語翻訳初級Ⅰ・Ⅱ 日本古代・中世史概説 ジャーナリズムの社会学 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>【アドヴァンスト】(28) 日本語の表現 日本古典文学作家作品論A・B 日本近代文学作家作品論A・B 漢文学特講Ⅰ・Ⅱ 現代日本語文法A・B 英語翻訳演習B ロシア語学Ⅰ・Ⅱ ジェンダーの社会学 サブカルチャー論 人間学外書講読Ⅰ・Ⅱ</p> <p>日本文学特講A・B・C 英米児童文学研究 演劇論 ロシア文学 ロシア語文学講読Ⅰ・Ⅱ 中東文化論Ⅰ・Ⅱ 国語科教育法Ⅲ・Ⅳ 英語科教育法Ⅲ・Ⅳ その他EMP科目</p>
<p>【共通科目】(26) 基礎科目(6) 大学科目(4) 言語科目(10) 世界市民教育科目(4) 社会科学系科目(2)</p>			
<p>【自由選択】(38) 〔教職科目・専門科目・他学部専門科目:イントロダクトリー・ベーシック・アドヴァンスト・共通科目の必要単位を上回った数はここでカウントする〕</p>			

# メジャー履修モデル ⑦国際日本学

\*選択科目については、関心のある言語・科目や希望するゼミ教員の履修モデルにしたがって選択しましょう。

1年次	2年次	3年次	4年次
<p>【イントロダクトリー：選択必修2単位以上】 人間学 Introduction to Humanities (EMP)</p>	<p>【ベーシック：選択必修2単位以上】 文学部の学びとライフデザイン Academic Foundations for Humanities (EMP)</p>	<p>【アドヴァンスト：必修4単位】 演習Ⅰ 演習Ⅱ (EMP含む)</p>	<p>【アドヴァンスト：必修10単位】 演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業論文研究Ⅰ 卒業論文研究Ⅱ (EMP含む)</p>
<p>【イントロダクトリー：選択科目4単位】 メジャー修了認定条件＝選択科目4単位のうち以下の□から2単位</p> <p>国際日本学への招待 異文化コミュニケーション Global Japan Studies (EMP) Human and Society (EMP)</p>		<p>&lt;その他推奨科目&gt; Cultural Representation I, II</p>	
<p>【ベーシック：選択科目24単位】メジャー修了認定条件＝選択科目24単位のうち以下から10単位</p> <p>国際交流と日本社会 英語で日本紹介Ⅰ・Ⅱ 社会で通用する日本語 英語通訳演習A 英語翻訳演習A 言語学概論Ⅰ・Ⅱ 対照言語学Ⅰ・Ⅱ 日本思想史Ⅰ 日本古代・中世史概論 考古学概論 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 日英語比較概説 日本古典文学購読 比較文化Ⅰ・Ⅱ 比較文化史概論 国際関係論 文化人類学 社会学史概説 社会福祉概論Ⅰ Introduction to Linguistics (EMP) Comparative Culture I/II (EMP) など</p>			
		<p>【アドヴァンスト：選択科目14単位】メジャー修了認定条件＝以下の選択科目から14単位</p> <p>社会言語学 現代日本語文法A・B 日本語の表現 東洋思想史 日本思想史Ⅱ 民俗学 西洋文化史 東洋文化史 日本近世・近現代史概説 ディベート日本学 サブカルチャー論 漢文学特講Ⅰ・Ⅱ 日英語比較研究 日本語学特講A 日本語の語彙・表記 平和学 人間の安全保障 東アジア共同体と安全保障論 国際社会論 メディアと社会心理 ジェンダーの社会学 歴史の社会学 人間学外書購読 Global Communication(EMP) Text Studies I/II(EMP) Intercultural Communication(EMP)</p>	
<p>【グローバル科目（ベーシック）】メジャー推奨単位数＝4単位（卒業要件2単位以上）☆2・3年次の修得を推奨 Academic Writing AI, Academic Writing AII, Academic Writing BI, Academic Writing BII など英語で論文を書くための科目など</p>			
<p>【共通科目】☆1・2年次の修得を推奨 ①基礎科目：初年次セミナー（2単位）、学術文章作法（2単位）、自然（2単位）統計学、コンピューター・リテラシーなど ②大学科目（4単位） ③言語科目（10単位） ④世界市民教養科目（4単位）平和学入門、世界市民教育演習など ⑥社会科学系科目（2単位）心理学入門、教育学入門など</p>			

EMP=English Medium Program \*下線が付されている EMP=副専攻修了要件科目

## メジャー履修モデル ⑧ 社会学

1年次	2年次	3年次	4年次
<b>【イントロダクトリー:選択必修2単位以上】</b>	<b>【ベーシック:選択必修2単位以上】</b>	<b>【アドヴァンスト:必修4単位】</b>	<b>【アドヴァンスト:必修10単位】</b>
人間学 Introduction to Humanities (EMP)	文学部の学びとライフデザイン Academic Foundations for Humanities (EMP)	演習Ⅰ 演習Ⅱ (EMP含む)	演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業論文研究Ⅰ 卒業論文研究Ⅱ (EMP含む)
<b>【イントロダクトリー】①メジャー修了条件=4単位 ②卒業要件=6単位以上</b>			<div style="border: 2px dashed gray; padding: 10px;"> <p>1・2年次から下記の7科目すべてを計画的に履修することで「社会調査士」資格を取得することも可能。</p> <p>●<b>ベーシック</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会調査の基礎(1年)</li> <li>社会調査方法論(2年)</li> <li>資料収集・データ分析法(2年)</li> <li>社会統計学(2年)</li> <li>質的調査分析論(2年)</li> </ul> <p>●<b>アドヴァンスト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サーベイ調査実習(3年)</li> <li>フィールド調査実習(3年)</li> </ul> </div>
人間学／Introduction to Humanities(選択必修) 現代社会研究への招待 Human and Society 社会福祉入門 ※3年春学期のメジャー登録のためには、社会学メジャーに該当する科目(選択必修科目以外)を2単位以上を取得する必要がある(1年次の「現代社会研究への招待」を履修することが望ましい)。 ※さらに「異文化コミュニケーション」「国際日本学への招待」など、イントロダクトリー科目から、上記科目も含めて合計4単位以上を取得(選択必修科目を含めて、卒業までに合計6単位)。			
<b>【ベーシック】(①メジャー修了条件=12単位、②卒業要件=26単位以上)</b>			
文学部の学びとライフデザイン／Academic Foundations for Humanities(選択必修、2年春学期) 社会学概論 社会調査の基礎 文化人類学 国際関係論 ※3年春学期のメジャー登録のためには、上記の科目を含め社会学メジャーに該当する科目(選択必修科目以外)を2単位以上を取得する必要がある(「社会学概論」に加えて、他の教科も履修することが望ましい)。	「家族の社会学」「比較文化」「社会学史概説」「Comparative Culture I & II(EMP)」など、関心のあるゼミ担当教員の履修モデルを参照して、ベーシック全体で26単位以上を取得。		
	<b>【アドヴァンスト】(メジャー修了条件および卒業要件=演習と卒業論文研究を含めて28単位以上)</b>		
	「ジェンダーの社会学」「メディアと社会心理」「映像の社会学」「教育の社会学」「人間の安全保障」「中国の政治」「ロシアの社会」など、ゼミ担当教員の履修モデルを参照して、必修科目以外に、アドヴァンストで14単位以上を取得。		
<b>【グローバル科目】(2単位)</b>			
(自分の語学レベルに相当する科目)			
<b>【共通科目(基礎科目6、大学科目4、言語科目10、世界市民教育科目4、社会科学系科目2)】</b>			
基礎科目から6単位(初年次セミナー2単位、学術文章作法2単位、基礎数学、統計学入門、コンピュータ・リテラシーから2単位) 大学科目から4単位 言語科目から10単位(英語6単位、他言語4単位) 世界市民教育科目から4単位(現代マスコミ論、留学のための国際理解など) 社会科学系科目から2単位(経済学入門、法学入門、心理学入門など) ※その他必要に応じて履修。			
<b>【自由選択科目】</b>			
(教職科目、専門科目、他学部専門科目:イントロダクトリー・ベーシック・アドヴァンスト・共通科目の必要単位を上回った数はここでカウントする。			

履修モデル ⑨ 社会福祉専修 履修モデル

1年次	2年次	3年次	4年次
<b>【イントロダクトリー:選択必修2単位以上】</b>	<b>【ベーシック:選択必修2単位以上】</b>	<b>【アドヴァンスト:必修4単位】</b>	<b>【アドヴァンスト:必修10単位】</b>
人間学 Introduction to Humanities (EMP)	文学部の学びとライフデザイン Academic Foundations for Humanities (EMP)	演習 I 演習 II (EMP含む)	演習 III 演習 IV 卒業論文研究 I 卒業論文研究 II (EMP含む)

【イントロダクトリー科目】(卒業要件=6単位以上)
人間学(選択必修) 社会福祉入門(選択) イントロダクトリー科目(選択)から「社会福祉入門」以外に2単位以上を取得

【ベーシック科目】(卒業要件=26単位以上)		
社会福祉調査の基礎	文学部の学びとライフデザイン(選択必修)	地域福祉と包括的支援体制 I・II
社会理論と社会システム	社会福祉の原理と政策 II	
心理学理論と心理的支援	児童福祉論 I・II	
社会福祉の原理と政策 I	障害者福祉 I・II	
	高齢者福祉 I・II	

【アドヴァンスト科目】(卒業要件=演習 I～IVと卒業論文研究 I・IIを含めて28単位以上)
必修科目以外に、社会福祉専修のアドヴァンスト科目24科目50単位をすべて履修すること

【グローバル科目】(2単位)
自分の語学レベルに相当する科目

【共通科目(基礎科目6、大学科目4、言語科目10、世界市民教育科目4、社会科学系科目2)】
基礎科目から6単位(初年次セミナー2単位、学術文章作法2単位、基礎数学、統計学、 コンピュータ・リテラシーから2単位)
大学科目から4単位
言語科目から10単位(英語6単位、他言語4単位)
世界市民教育科目から4単位
社会科学系科目から2単位
※その他必要に応じて履修

【自由選択】
共通科目、人間学科専門科目、他学科専門科目、特設課程科目で必要単位を上回った数はここでカウントする

# 1. 文学部中国語特修プログラム

## ● 到達目標 HSK 3級、中国語検定4級

## ● 概要

中国語の実践的な学力の向上及び中国語資格試験の挑戦を目指す1年生を対象に文学部独自のプログラムである「文学部中国語特修プログラム」を開講する。このプログラムでは文学部で開講している科目の履修に加え、特修プログラム受講者のために開講する夏季集中講座や特修講座を受講することにより中国語学習をサポートする。

## ● カリキュラム 6科目12単位

授業科目	単位	年次	授業
中国語学入門Ⅰ	2	1	春学期
中国語学入門Ⅱ	2	1	秋学期
中国語コミュニケーション演習初級Ⅰ	2	1	春学期
中国語コミュニケーション演習初級Ⅱ	2	1	秋学期
中国語講読初級Ⅰ	2	1	春学期
中国語講読初級Ⅱ	2	1	秋学期

上記の科目を全て取得すれば「修了証」を発行する。

\* 毎月資格試験受験を支援するための講座を開設する。

(実施例)

- 各種中国語資格試験（中国語検定試験、HSK、通訳案内士試験など）の紹介
- 各種試験対策と勉強法
- 中国語学習の目的と方法
- 中国社会と中国語
- 中国文化と中国語
- 中国語模擬試験実施

※その他、大学主催の夏・春季の短期語学研修の参加やWLCの中国語関連科目の履修を推奨します。

(参考)

HSK3級: HSK(漢語水平考試)は、中国語を母国語としない中国語学習者のための中国語能力認定標準化国家試験。中国を含め112カ国で実施されている。HSK証書は、中国留学、就職などで中国語力の基準証明の役割を持つ。なおヒアリング、文法、読解問題などが行われ、スコアに応じて級が判定される。HSKは、6級が最高級。3級は、日常の話題について簡単かつ直接的な交流ができる初級レベル。

[http://www.hanban.org/tests/node\\_7486.htm](http://www.hanban.org/tests/node_7486.htm)

中国語検定4級: 1981年にスタートしたもともとポピュラーな中国語試験。1級から準4級まで6段階ある。4級は、平易な中国語を聞き、話すことができる基礎レベル(4級の合格率79.8%)。 <http://www.chuken.gr.jp/>

中国語特修プログラムを目指す皆さんへ

プログラムリーダー 文学部准教授 佐藤素子

中国と日本の間には長い交流の歴史があり、日本は中国から多くの文化を受け入れ独自の文化を形成してきました。そして私たちは誰しも中国との交流を深め良き関係を築きたいと願っています。このような事業にことばを通して参加できることは有意義であり、やりがいのあることは言うまでもありません。

しかし、政治・経済・文化・生活などの領域は実質的な活動であり、ことばをそのような活動に役立てるためには、ことばそのものを学ぶと同時に、いろいろな領域に関する知識を学ぶ必要があります。また日本と中国の間に存在する厳しい現実・問題を理解することも必要です。本プログラムは様々な側面からサポートいたします。

## 2. 文学部ロシア語特修プログラム

- 到達目標 TPKM (ロシア連邦教育科学省認定ロシア語検定試験)基礎レベル、東京ロシア語学院ロシア語能力検定試験4級

- 概要

第2外国語でロシア語を選択した人が文学部開設のロシア語関連科目を組み合わせ受講することによって、ロシア語の基礎力をより着実に身につけられるように設計されたプログラムです。共通科目の第2外国語授業科目のロシア語Ⅰ・Ⅱだけではカバーしきれない会話、発音の訓練、より体系的で一歩掘り下げた文法解説とドリルの授業が加わるほか、特修講座(以下に説明)を通じてロシア語を使って活躍しているOBやOGの体験に身近に触れることができるなど、ロシア語学習のきめ細かなサポートが受けられます。ロシア語の通訳や翻訳家、対露ビジネスでの活躍を目指す人に薦めます。

ロシアへの派遣留学を考えている人は、必ずこのプログラムを履修してください。

- カリキュラム 8科目12単位(共通科目:2科目4単位+文学部科目:6科目8単位)

	春学期				秋学期			
	授業科目名	授業内容	週授業数	単位	授業科目名	授業内容	週授業数	単位
共通科目	ロシア語Ⅰ	総合	2	2	ロシア語Ⅱ	総合	2	2
文学部科目	ロシア語文法入門Ⅰ	文法	2	2	ロシア語文法入門Ⅱ	文法	2	2
	ロシア語コミュニケーション初級Ⅰ	会話	1	1	ロシア語コミュニケーション初級Ⅱ	会話	1	1
	ロシア語発音トレーニングⅠ	会話	1	1	ロシア語発音トレーニングⅡ	会話	1	1

※上記の科目を全て取得すれば「修了証」を発行します。

【文学部ロシア語特修講座】

放課後(水曜の16:35~18:05を予定)に行われる特別講義。通訳、通訳案内士(通訳ガイド)、対露貿易商社マン、外務省在外公館派遣員、ロシア語学ロシア文学研究者など、ロシア語を使って活躍しているOBやOGの方を講師に招いて、その仕事の様子や勉強の仕方について話してもらいます。春学期は6~7月に、秋学期は10~11月に、どちらも3回ずつ開講する予定。日付、講師などの詳細は追って発表します。

ロシア語特修プログラムを目指す皆さんへ

プログラムリーダー 文学部教授 佐々木 精治

トルストイやドストエフスキ、シャガールやマレーヴィチ、チャイコフスキやストラヴィンスキを生んだ精神と文化の大国ロシアは、国際政治や経済の面でも、世界の流れを大きく左右する存在として、重要な位置を占める国であり、とくに日本にとっては、直接領土を接するヨーロッパの国として特異な存在であり、その一風変わった文字を用いるロシア語が全国的なブームとなってきました。

プログラム中の文学部科目(太線で囲んだ部分)の授業は、共通科目よりも一歩立ち入って深く学び、より進んだ力をつけるための授業で、いずれも少人数クラスの授業ですから、学習者一人一人の理解度や発音の癖などに対して目の行き届いたきめの細かいサポートが行われます。対露ビジネスや国連関連機関や外務省関連職への就職、国際文化交流分野での活動、あるいはロシア文学・文化の研究者など、ロシア語の力を活かした活躍の場を目指す人にとって、まず基礎段階で着実な力をつけておくことが結局は早道です。留学の成否も、ロシアへ行く前に日本でどれだけ力をつけているかによって決まります。

他大に先駆けモスクワ大学との交換留学を始めた創価大学は、本格的にロシア語が学べる日本では数少ない大学の一つ。そしてロシア語はその学習を誰もがゼロからスタートする外国語です。文学部生になられた皆さんはぜひ挑戦者の気概を持って、一人でも多くの方が、このロシア語特修プログラムに挑戦されることを願ってやみません。

### 3.日本語教育プログラム

● **到達目標** 日本語教育に必要な専門的な知識・能力を身につける

● **概要**

本格的な日本語教師を目指す学生のためのプログラムです。具体的には異文化コミュニケーション《日本語》メジャーに所属する学生を対象にしています。日本人なら誰でも日本語が教えられるわけではなく、日本語に関するさまざまな知識、学習者のニーズやレベルに応じて体系的に教えられる技能などが必要になります。海外あるいは国内の日本語教育機関で日本語教師として活躍したい、あるいは国内の小中高校で外国籍児童・生徒の日本語指導に関わりたいと考える学生には、本プログラムの履修をお勧めします。このプログラムに沿って学習することによって、日本語教師として必要な知識や能力を幅広く専門的に身につけることができます。そして、そういった専門的な知識や能力を身に付けたことを証明するために、修了書を出します。大学院進学や就職に役立ててほしいと思います。なお、国語の教員免許もあわせて取得すると（教職科目との重複が多い）活躍の場が広がりますし、もし大学院に進学した場合には専修免許も取得可能となるため、学校での日本語支援にも役立ちたいと考えるなら教職課程も履修しておきましょう。

● **カリキュラム**

異文化コミュニケーション《日本語》メジャー科目から 45 単位以上、そのうち日本語教育科目（\*下表）から 38 単位以上修得する。「日本語教育実習」は本プログラムの必修科目です。

### 4.日本語教育（基礎）プログラム

● **到達目標** 日本語教育に必要な基礎的な知識・能力を身につける

● **概要**

日本語教師として必要な最低限の知識や技能を学べるプログラムです。人間学科生ならどのコース・メジャーからも学べます。日本人なら誰でも日本語が教えられるわけではなく、日本語に関する知識、学習者のニーズやレベルに応じて体系的に教えられる技能などが重要です。海外での専門職を目指しながら現地で一時的に日本語教師を務めたり、国内外でボランティアとして日本語教育を行ったり、地方自治体における外国人住民への日本語支援に関わったりする可能性のある学生に本プログラムの履修をお勧めします。文学部以外の学生も履修可能です。小中高校の教員免許を取得予定の学生は、本プログラムを履修しておくことで学校での日本語支援に役立てることができるため履修をお勧めします。こちらのプログラムも修了書を出します。ただし、本格的な日本語教師を目指す学生は、異文化コミュニケーション《日本語》メジャーに所属し日本語教育（関連）科目 45 単位以上の履修、日本語教育プログラムの登録をお勧めします。

● **カリキュラム**

異文化コミュニケーション《日本語》メジャー科目から 26 単位以上、そのうち日本語教育科目（\*下表）から 22 単位以上修得する。「日本語教育実習」は本プログラムの必修科目です。

\*日本語教育科目

授業科目	単位	年次	授業科目	単位	年次
異文化コミュニケーション	2	1	日本語の語彙・表記	2	2
日本語教育概論Ⅰ	2	1	日本語教材研究Ⅰ	2	2
日本語教育概論Ⅱ	2	1	日本語教材研究Ⅱ	2	2
日本語学概論Ⅰ	2	1	日本語教授法Ⅰ	2	2
日本語学概論Ⅱ	2	1	日本語教授法Ⅱ	2	2
日本語コミュニケーション論	2	1	日本語教育学特講 A	2	3
言語学概論Ⅰ	2	2	日本語教育学特講 B	2	3
言語学概論Ⅱ	2	2	日本語教育学特講 C	2	3
対照言語学Ⅰ	2	2	日本語教授法演習	2	3
対照言語学Ⅱ	2	2	【必修】日本語教育実習	2	3
日本語音声学	2	2	日本語メジャー演習Ⅰ	2	3
社会言語学	2	2	日本語メジャー演習Ⅱ	2	3
現代日本語文法 A	2	2	日本語メジャー演習Ⅲ	2	4
現代日本語文法 B	2	2	日本語メジャー演習Ⅳ	2	4
日本語の表現	2	2			

※日本語教育プログラム（基礎を含む）に限り、入学時だけでなく4年次春学期終了までのいつの時点でも登録できます。但し、計画的な履修が望ましく、なるべく早めの登録をお勧めします。また、両方に登録することも可能です。

#### （参考）日本語教員資格について

日本語教員資格認定のための国家試験制度として設けようという動きがありますが、まだ確立していません。文部科学省としては、日本語教員資格の目安として、「1. 大学（短期大学を除く）において日本語教育に関する主専攻（日本語教育科目45単位以上）を修了し、卒業した者。2. 大学（短期大学を除く）において日本語教育に関する科目を26単位以上修得し、卒業した者。3. 日本語教育能力検定試験に合格した者。4. （省略）」を提示しています（下記URL参照）。日本語教育プログラムはこのうちの1に、日本語教育（基礎）プログラムは2に相当しますが、あくまでもこれは目安に過ぎず、日本語教育機関によって、修士号取得や日本語教育能力検定試験合格を必須要件としたり、独自の採用試験を課したりなど、採用方法はまちまちです。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/t19930714001/t19930714001.html](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19930714001/t19930714001.html)

また、平成28年より、外国人留学生へのビザ発給に関わる法定日本語教育機関に勤務する日本語教師は、上記の日本語教員資格の取得単位に「教育実習」1単位以上を含むことが必要になりました。（日本語教育機関の告示基準解釈指針）<http://www.moj.go.jp/content/001264205.pdf>

日本語教育プログラムを目指す皆さんへ

プログラムリーダー 文学部教授 大塚 望

相互尊重の精神に基づく異文化交流と、双方向的な言語教育が現代では求められています。外国語の語学力を身につけた人材の重要性もさることながら、外国人に日本語を教えることができる人材も、それと同様に求められる時代になります。前者に比べて後者は簡単なことのように思えるかもしれませんが、無意識のうちに日本語の音韻や文法を習得してきた日本人にとって、それらを外国人に意識的に、かつ体系的に教えることは決して簡単なことではなく、一定の専門的な知識と技能を必要とします。したがって、生涯の職業として日本語教師を目指す学生には異文化コミュニケーション《日本語》メジャーと日本語教育プログラムへの登録をお勧めします。また、海外での仕事を希望している学生なら誰でも、一時的な職業として、あるいはボランティアとして、日本語教育に携わる可能性がありますので、メジャーに関わりなく、さらに文学部以外からも日本語教育（基礎）プログラムへの登録をお勧めします。日本語教育の基礎技能を身につけた潜在的な日本語教師が創大生の中から多く育っていくことを期待しています。

#### 【日本語教員への道】

日本語教師を募集している機関は、

- ① 日本語学校…国内では、日本語を学ぶために来日した外国人が多く、1つのクラスで様々な国籍の学生を教える。海外はアジア圏に多く、就職するにはビザが必要。
- ② 大学…国内では、主に大学付属の日本語学校で大学進学を目的とした留学生に教える。海外では、必修外国語として、院生には専門研究の為に教える。国内外共に修士以上の学歴が必要。
- ③ 小学校・中学校・高校…外国籍の子どもや帰国子女などに教える。海外では一般的にその国の教員資格が必要。オーストラリアや韓国などでの募集が多い。
- ④ ボランティア…民間のボランティア団体などで教える。海外では、公的機関やNPOなどが日本語教師を派遣する場合がある。

その他に、海外の現地教師のティーチングアシスタントとして、日本語や文化を教える日本語教師アシスタントもある。その場合、参加費用を払うケースが多く見られる。

現在は、海外でも日本語教師の数も質も大きく成長しており、日本語母語話者といっても厳しく実力が問われる。しかし、日本語教育を通じて、日本語と日本を見つめ、学生とともに異文化を相互理解する貴重な場が得られる点で、大いにやりがいのある仕事だと言えよう。



発行 創価大学文学部事務室  
〒192-8577  
東京都八王子市丹木町 1-236  
TEL : 042-691-8047  
FAX : 042-691-8232  
E-mail : s4043@soka.ac.jp